



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3502号 2017.2.4 発行

障害者あるある 紙芝居に

読売新聞 2017年02月03日



紙芝居を制作した奥山さん（右）とイラストを描いたヘルパーの伊藤尚子さん

◆体験談 ユーモア交え

「車いすだと店員が目を合わせてくれない」「視覚障害者は鼻が敏感なので、おでんのおいでどのコンビニか当てられる」。こうした“障害者あるある”を伝える紙芝居が完成した。ユーモアを交えながら、様々な障害を持つ人たちの特徴や日常の困りごとを知ってもらおうと、立川市のNPO団体などが作成した。小中学校での出前

授業などで活用する予定だ。

紙芝居のタイトルは「障害者あるある～え？そんなことあるの？～」。身体・精神障害者だけでなく、高次脳機能障害や難病に苦しむ人たちからも寄せられた22の体験談の一つひとつをイラストにした。その内容を説明しながら、めくっていく。お笑いタレントがテンポ良くめくって笑いをとる紙芝居芸のイメージだ。

「車いすあるある」では、電車内でほかの乗客から電動車いすに寄り掛かれてしまう例などを紹介。「知的障害者あるある」では、電車に乗ると警戒されて周囲から人がいなくなってしまう例などを取り上げた。

当事者はなかなか訴えづらい悩みについて、パステルカラーを多用した柔らかなイラストで伝え、「視覚障害者は停電でも困らない」といったユーモアのある例も含めた。

ただ、紙芝居を見た人が「同じことをしてしまったかも」と後ろめたさを感じないよう、しゃべりで伝える解説に気を配った。車いすに寄り掛かれるケースでは「車いすは自分の体の一部と感じている人も多い」と理解を求めた上で、「満員電車では仕方がないこともあります。お互いに笑いにできる社会になるといいですね」などと言い添えることにしている。

制作の中心を担ったNPO法人「自立生活センター・立川」の理事長で、自身も車いす生活を送る奥山葉月さん（46）は、「障害者はかわいそうだねと思ってもらいたいわけでも、ドキッとさせたいわけでもない。誤解も招きやすいが、口だけでは伝わりにくい部分を紙芝居で補い、障害者も健常者も理解しあえる社会になればいい」と話す。

紙芝居は、同市が制定を目指している「障害のある人もない人も共に暮らしやすい立川をつくる条例（仮称）」作りにかかわる市内の複数のNPO団体や肢体不自由者の父母会などが協力して作り上げた。関係者らは、条例制定までに自分たちでできることとして作成を進めてきた。春頃から、小中学校の出前授業や地域の集会などで活用していく予定という。

尊厳死議論に息苦しさ 人工呼吸器使う人を描く「風は生きよという」11日から大阪で

上映 宍戸監督に聞く /兵庫



毎日新聞 2017年2月3日
人工呼吸器利用者と話をする宍戸大裕監督（左）＝兵庫県西宮市で、田辺佑介撮影

西宮に拠点 家族や友人、僕らと同じ

難病などで自力呼吸が難しく、人工呼吸器を使う人たちの生活を描いたドキュメンタリー映画「風は生きよという」（2015年）が11日から、大阪市内で上映される。上映を控え、障害者の自立支援活動を続ける西宮市のNPO法人「メインストリーム協会」を拠点に、関西の障害者と交流を続けている宍戸大裕監督（34）に、映画

の狙いや呼吸器利用者の現状を聞いた。【田辺佑介】

作品タイトルは、人工呼吸器から酸素を送る風の音からとった。利用者で、障害者支援団体を運営する東京都東大和市の海老原宏美さんが、散歩で公園の子供たちと接したり家族と食事をしたりする日常生活や、大阪府枚方市の高校2年、新居優太郎さんが中学校で同級生と授業を受け高校受験に取り組む様子などが描かれている。

――製作のきっかけは

終末期を迎えた人の意思を尊重しようということで、尊厳死を法制化する議論があります。人工呼吸器の利用者は、自分たちがこうした議論と関連づけられ、終末期を迎えていると誤解され「たくさんのお金を使ってまで生きる必要があるのか」と言われるのではないか、という不安を感じています。そこで利用者や支援団体から「日常生活の姿を撮ってほしい」と頼まれ、製作を始めました。

――撮影して気付いたことは

利用者には取材で初めて接しました。それまでは、どれだけつらい日常を過ごしているのかと思っていましたが、呼吸器を使うこと以外は、介助を受けながら普通に生活し、家族や友人もいる。考え方が変わりました。

――相模原市の障害者施設での殺傷事件を、どう受け止めましたか

別の取材で知的障害者の入所施設に寝泊まりしているときに事件を知りました。朝、利用者と話し、「この人たちが襲われたんだ」と思って泣けてきました。容疑者は、意思疎通ができない人を狙ったというが、僕は重度障害のある人でも視線や表情、顔色の変化を感じる。意思疎通ができない人たち（だから殺害する）というのは理解できない。

――人工呼吸器の利用者の今後について

映画に出演する人は、自立した生活を勝ち取った人たちといえます。人工呼吸器の利用者が家族の負担を気にせず社会的な支援を受け、生きる道を選択できるようになってほしい。

上映は第七芸術劇場（大阪市淀川区十三本町1、06・6302・2073）で、11日から3月3日まで。前売り1200円（当日一般・大学生1500円）。〔阪神版〕

新生生前診断 重い選択 染色体異常の場合、夫婦へ手厚い支援を

東京新聞 2017年2月3日

妊婦の血液から胎児の染色体異常を調べる新生生前診断が揺れている。カウンセリングをせずに認定施設外で検査を行ったとして、日本産科婦人科学会（日産婦）は医師三人を処分。一方、流産のリスクがなく検査できるため、二〇一三年四月の開始以降で受診者は三万人を超えた。妊婦とその夫の選択は――。（新西ましまほ）

東京都内に住む女性（35）は昨年七月、認定施設で新生生前診断を受けた。病院で案内されるまで検査を知らず、高額な費用に「必要ない」と思った。だが、四歳上の夫が「高齢で経済的な問題もある。リスクがあるなら知りたい」と強く希望。二度のカウンセリン

グ後に検査を選んだ。



出生前診断の相談にも応じている水戸川真由美さん（左）

結果は「染色体異常の可能性は低い」。女性は「カウンセリングを受けたことで、検査で分かる障害はほんの一部だということや、他の障害があっても生まれてくる可能性も分かった。障害がある子を育てるということに、初めて夫婦で向き合えた」と話す。

埼玉県内に住む女性（37）は、不妊治療を経て待望の第二子を授かったばかり。先日、医師から検査の案内を受けて以来、仕事や家事が手に付かないほど悩んでいる。「もし病気があっても絶対に産む」。そう決めていたのに、夫は「将来、長女に負担がかかるのではないかと検査を主張。検査ができる期間は限られているが、結論は出ないまま日が過ぎていく。

日本ダウン症協会の理事を務める水戸川真由美さん（56）＝東京＝は、出生前診断に関する相談も受けている。「夫婦二人で決めるには重い選択。遺伝カウンセリングだけでは不十分で、経験者による手厚い支援が必要」と実感する。

染色体異常が分かった妊婦に、ダウン症や障害のある子の子育て経験や産前産後のことを話している。妊娠の継続か中断か、どちらかを勧めることはない。「どんな命にも意味がある。私は子どもから大きく育ててもらい、たくさんのもので与えてもらった」。相談者には、そんな思いを伝えている。

診断を行うのは妊娠初期。「十分に考える時間もないまま選択を迫られる。妊娠前から検査についてきちんと知り、考える必要がある」と語る。

◆日産婦が指針

出生前診断にはさまざまな手法がある。このうち新出生前診断は、技術的には採血だけで高い精度の検査が可能だ。このため、安易な人工中絶につながらないよう、日産婦は（1）日本医学会が認定した施設だけで行う（2）施設は妊婦や家族が検査の意義などを理解した上で意思決定できる「遺伝カウンセリング」を行う（3）出産時に三十五歳以上など妊婦に条件を求める—という指針を設けた。

しかし、こうした指針を無視し、英国の検査会社と提携して新出生前診断のあっせんを行う民間業者もある。

日本医師会や日産婦など五団体は、こうした認定外施設での検査中止を求める共同声明を出した。産婦人科以外の医師にも指針を守るよう求めている。

種類	検査方法	検査に適した時期	一般的な費用	精度	リスク
新出生前診断	血液採取	10週～	約20万円	確定診断に近い精度	なし
母体血清マーカー		15～18週	2万～3万円	確率のみ	
超音波マーカー	エコーをあてる	11～13週	1万～2万円	確率のみ	
絨毛※検査	腹部に針を刺す	11～14週	10万～20万円	確定診断	流産の可能性
羊水検査		15～18週	10万～15万円		

出生前診断の種類と特徴

※胎盤のもととなる組織

<新出生前診断> ダウン症候群など三つの染色体異常を高い精度で調べられる。開始から3年間で3万615人が受診し、547人が陽性と判定された。その後の羊水検査で染色体異常が確定した417人のうち、94%にあたる394人が人工妊娠中絶を選択した。

選管の投票代筆「違憲」提訴へ 記入困難な障害者、補助者限定で



京都新聞 2017年2月3日

公選法の投票補助者に関する規定を巡り、昨年7月の参院選で投票を棄権した中田泰博さん＝大阪府豊中市

障害のため文字の書けない有権者が投票する際、代筆や立ち会いを担う「補助者」を選挙管理委員会の職員らに限るとした公選法の代理投票規定は、憲法が保障する「投票の秘密」に反するとして、脳性まひの男性が今春、国家賠償を求める訴えを大阪地裁に起こすことが3日、分かった。

かつて補助者には制限がなく、家族や知人も務めることができたが、2013年の公選法改正で「投票所の事務に従事する者」と限定。選挙権を巡っては、海外の邦人や成年被後見人に対する制限を違憲とする司法判断が続いて範囲が拡大しており、投票方法を厳格化した是非が焦点となる。

車のデザインに挑戦...トヨタ、聴覚障害児招待

読売新聞 2017年02月03日

トヨタ自動車 が聴覚障害の児童たちを招待し、クルマづくりを紹介する見学会が2日、豊田市のトヨタ会館で行われた。

見学会には、岐阜県立岐阜聾学校（岐阜市）と三重県立聾学校（津市）の児童26人が参加した。同社のデザイナーらの説明を聞きながら、水素で走る燃料電池車「ミライ」のスケッチ画に、マーカーやパステルを使って青や緑、ピンクなど好みのカラーに色づけした。

小学部6年加納桃花さん（岐阜聾）は「きれいに出来て楽しかった。参加できてよかった」と笑顔を見せ、同5年宮崎渚君（三重聾）は「絵を描くのは好きだが、デザインは初めてで面白かった」と喜んでた。

見学会は1973年から行われ、3800人以上が招待されている。愛知県立一宮聾学校に通っていた約30年前の見学会に参加し、同社の社員となって、この日説明した今井健太さん（40）は「一生懸命に色づけする児童たちと一緒に作業ができてよかった。これからも明るく頑張ってもらいたい」と話していた。

みんなの愛、保育園の門開いた！ 重病の3歳児、通園へ 青田貴光

朝日新聞 2017年2月2日



保育園に初登園し、教室に入った田中彩愛ちゃんと、喜ぶ姉の瑞希ちゃん（右）＝



滋賀県東近江市八日市町

脳の重い病気で、人工呼吸器などのケアが欠かせない滋賀県東近江市の田中彩愛（あやめ）ちゃん（3）が、地元の保育園に通い始めた。自治体は医療的ケア児を支援することになっているが、症状の重い子を預けられる施設は少なく、受け入れは異例。周囲の支えもあり、通園できるようになった彩愛ちゃん。受け皿づくりの一步として、期待されている。

大雪となった1月16日朝。母の美由紀さん（38）は車に彩愛ちゃんを乗せ、通常20分の道のりを約2時間かけ、保育園へたどり着いた。医療用の車いすを押し、入園を祝う看板が掲げられた園庭へ入ると、「おめでとうございます」と迎えられた。同じ園に通う長女の瑞希（みずき）ちゃん（5）にとっては待ちに待った日。美由紀さんは「瑞希が『絶対今日じゃないとダメ』と。もう疲れました」と表情を緩めた。

彩愛ちゃんは仮死状態で生まれ、大脳の表面に細かい溝やしわが多数ある「多小脳回（たしょうのうかい）症」と診断された。寝たきりでけいれんも時折あり、目や口の微妙な動きで感情を伝える。栄養は、体外から胃に入れる「胃ろう」のチューブで注入。気管を切って入れた管で呼吸を補い、1日10回程度のたん吸引も欠かせない。

「なんであーちゃんと保育園に行かれへんの」

2015年夏、生まれてから過ごしてきた新生児集中治療室（NICU）から彩愛ちゃんが自宅へ戻った。在宅で面倒を見ようと決めたのは、妹に会えずにさみしがる瑞希ちゃんのためだった。入園は妹思いの姉が発した一言がきっかけになった。

美由紀さんはスーパー勤めをあきらめ、辞意を伝えたが、上司は「辞めなくていい。1時間でも出勤を」と言ってくれた。24時間の在宅ケアは、訪問看護師や父の恵司（けいじ）さん（33）、新たに同居した祖母と分担した。

彩愛ちゃんにも変化が現れた。表情が豊かになり、瑞希ちゃんが話しかけると、ニコッと笑う。けいれんは減ったが、止まらず困った時、瑞希ちゃんがトントンとたたくと治まったこともあった。

■園、看護師確保し態勢

彩愛ちゃんが通い始めたのは、社会福祉法人が運営する東近江市の八日市めぐみ保育園（園児108人）。医療的ケア児の受け入れ実績はないが、美由紀さんや通っている瑞希ちゃんから希望を聞き、園側が決断。主治医は「集団生活で脳に刺激を与えれば、どんな変化があるか分からない」と入園を勧め、市が昨年4月に内定を出した。

しかし、受け入れには高い壁があった。人工呼吸器の扱いや、鼻から管で人工的に栄養を流す経管栄養は医療行為にあたり、常駐の看護師が新たに必要になる。園側は5～6人に打診したが「協力したいが、高齢で……」などと断られ、市の募集でも集まらなかった。

一方、保育士らは「絶対預かる」と、たん吸引の講習を受講し、徐々に準備を進めた。秋になって約10年の看護師経験がある近江八幡市の女性（41）が「チームでやれるなら」と園の求めに応じた。人件費は市の補助金でまかなわれることになり、救急搬送を含めたけいれん時の対応方針などは両親と主治医、訪問看護師らが決めた。

川上信園長（49）は「子どもは子どもの輪の中でぐんと成長できる。どんな子でも預かる保育園へと変わらないといけない」と話す。



医療貢献 これからも 読売新聞 2017年02月03日
表彰状を手にする鎌田さん（右）と佐倉さん（広島市中区で）

◇功労賞 鎌田さん・佐倉さん表彰

長年にわたって地域医療や保健福祉の向上に尽力した人をたたえる「第45回医療功労賞」（読売新聞社主催、厚生労働省、日本テレビ放送網後援、損保ジャパン日本興亜協賛）の県表彰式が2日、広島市中区で開かれた。広島原爆被爆者援護事業団の鎌田七男理事長（79）と重症児・者福祉医療施設鈴が峰の佐倉伸夫院長（66）に表彰状が贈られた。

鎌田さんは被爆者に多く見られる多重がんと放射線との関係や、染色体異常について半世紀以上にわたって研究に取り組み、原爆被爆者医療の発展に尽力した。

鎌田さんは「被爆内科にたまたま入局し、偶然実験に成功したが、この55年間、偶然の中には多くの予測があったと思う」と振り返り、「受賞を励みに、今後も被爆者の診療と

研究に努力し、多くの予測の中から見逃さずに偶然をつかんでいきたい」とあいさつ。「高齢化する被爆者が安心して暮らせるよう見守っていきたい」と語った。

佐倉さんは新生児の先天性代謝異常症を研究し、異常を発見するための新しい検査方法の有効性を証明。全国的に導入が進み、早期診断と治療体制の確立に貢献した。

佐倉さんは「自分一人のできる仕事ではなく、ともに研究してきた仲間や支えてくれたスタッフの代表としていただいた賞だと思う」と受賞を喜んだ。「障害を持っている子の生活環境を整え、自分で気持ちを訴えられない子の代わりに声を上げていきたい」と抱負を述べた。

相模原障害者殺傷事件 施設建て替えの協議会開催



NHK ニュース 2017年2月3日

神奈川県は3日、障害者施策について協議する会議を開き、去年、殺傷事件が起きた相模原市の知的障害者施設の建て替えに向けた県の構想案に対して、障害者団体から、地域に根ざした小規模な施設にすべきだといった意見が出ていることなどについて話し合いました。

神奈川県は3日、専門家などが障害者施策について検討する審議会を開き、去年7月、殺傷事件が起きた知的

障害者施設「津久井やまゆり園」の建て替えについて協議が行われました。

県は、これまでと同規模の施設とする構想案をまとめましたが、障害者団体などから、入所者が地域に根ざした生活を送ることができるように小規模な施設を複数作るべきだといった反対の意見が出ていることから、改めて構想案の検討を進める部会を設置することを決めました。

審議会の委員からは「小規模な施設に移ってもらい、障害者を地域で受け入れていくべきだ」という意見が多く出された一方で、「入所者や家族の希望があれば、規模を縮小したうえで同じ場所での建て替えが必要なのではないか」という意見もありました。

部会は、今後、施設の家族会からも意見を聞くなどして、5月までに提言をまとめる予定で、県は提言を踏まえて、夏までに基本構想を策定することになっています。

西部県民局が福祉避難所の運営ゲーム改良

徳島新聞 2017年2月3日



福祉避難所向けバージョンのHUGを体験する参加者＝三好市池田町マチの県西部県民局三好庁舎

県西部県民局が、災害時の避難所運営を図上で疑似体験する既存のカードゲームを独自に改良し、福祉避難所を対象にした新たなバージョンを考案した。高齢者や障害者ら災害弱者のスムーズな受け入れに役立てる。2日に三好市で開かれた研修会で初めて披露し、関係者が訓練に取り組んだ。

改良したのは、静岡県が開発した避難所運営ゲーム（HUG）。HUGは、年齢や性別、家族構成、被災状況などを記した避難者のカードと、炊き出し場所の確保などといった対応を求めるカードがあり、それぞれのカードを読み上げて行動を考える仕組み。

県西部県民局は、福祉避難所を想定し、「足が不自由な高齢者」「妊娠中で、2歳の子ども連れ」「一般避難所から聴覚障害者の受け入れ要請があった」といったカードを作り、組

み込んだ。

2日の研修会では、三好市池田町マチの県西部県民局三好庁舎で、自治体の防災担当者や福祉施設の職員ら約60人が8班に分かれてゲームを体験。カードを順番に読み上げ、避難者を空き部屋に受け入れたり、一般避難所へ誘導したりする判断を下し、福祉避難所に指定されている施設の平面図上にカードを配置していった。

特別養護老人ホーム永楽荘（三好市）の前田孝樹施設長は「振り分けの判断に迷うケースも多く、非常に役立つ訓練」と話した。

県西部県民局は今後、福祉避難所の指定を受けた施設などへの貸し出しができるよう準備を進める。

大阪弁セリフ、久々で安心 小芝風花

大阪日日新聞 2017年2月3日

現在放映中のカンテレ深夜ドラマ「大阪環状線～ひと駅ごとの愛物語—Part 2—」（火曜深夜）の第5話・桃谷駅編「酒と泪（なみだ）と男とわたしたち」（14日放送）に主演した堺市出身の小芝風花（19）。「久しぶりの大阪弁のお芝居で楽しかった。環状線は祖父母宅に行くのによく利用したので懐かしい」と笑顔で語った。

「大阪弁の仕事が多い」と楽しそうに語る小芝風花＝大阪市北区のカンテレ



38歳バツイチの光子（中村ゆり）と年に数回しか会わないひとり娘聡美（小芝）は、ある日桃谷駅で待ち合わせ。しかしメールのやりとりの行き違いからなかなか出会えず、携帯電話で会話しながら物語が進行する。2日間の超スピード撮影ながら、電話での会話シーンを2画面で見せ臨場感を演出。

同駅を挟んで、東は庶民的な街の生野区、西は文化財が点在する文教地区天王寺区と地域の顔が異なる接点となる場所。駅北東に広がる野球場もあって広い桃谷公園でのロケでは、地域住民も多数見物に駆けつけ、「みんな気さくで温かい方ばかり。雑談も大阪弁なのでホッとした」と笑顔に。

大阪弁でのドラマは昨年のNHK連続テレビ小説「あさが来た」の主人公の娘役以来。間もなく公開の主演映画「天使のいる図書館」も舞台が奈良で「最近、関西弁づいているんです」と楽しそう。芸能プロダクションオーディションでグランプリを獲得し上京してすでに6年。これからもふるさとを忘れず、女優の道を一步ずつ歩んでいく決意だ。

虐待死、養父に懲役9年判決...裁判長「残酷」

読売新聞 2017年02月03日

堺市堺区で2015年6月、自宅浴槽に長男（当時3歳）を沈めて死亡させたとして、傷害致死罪などに問われた養父・常峰渉被告（33）の裁判員裁判の判決で、大阪地裁堺支部は3日、懲役9年（求刑・懲役13年）を言い渡した。

武田義徳裁判長は「幼く、抵抗できない長男を繰り返し水に沈めており、残酷と言うほかない」と述べた。

判決によると、常峰被告は、長男・英智ちゃんの実母・美香被告（23）（傷害致死罪などで起訴）と共謀し、15年6月14日夜～15日未明、英智ちゃんが言うことを聞かないとして、足で首を踏み、浴槽に沈めるなどして死亡させた。

武田裁判長は「本来守るべき立場にある被告が、ストレスのはけ口として虐待をエスカレートさせた。英智ちゃんが謝っているのに沈める行為を繰り返し、相当危険」と指摘した。

「手続き面倒」受刑者の手紙廃棄...大阪刑務所 読売新聞 2017年02月03日

受刑者から送付を依頼された福祉給付金の申請書や手紙を廃棄したとして、大阪刑務所は3日、男性刑務官（37）を停職3か月の懲戒処分にしたと発表した。

刑務官は「手続きが面倒だった」と話しているという。

大阪刑務所によると、工場担当だった刑務官は2015年6月～16年3月、消費税増税に伴う負担軽減策として導入された臨時福祉給付金の申請書や手紙など、受刑者20人から預かった計34点をシュレッダーにかけ、廃棄。昨年3月、給付金が支給されないことを不審に思った受刑者が家族に手紙を出して発覚した。

大阪刑務所の渡辺昭太郎所長は「指導を徹底し、再発防止に努める」とするコメントを出した。

人材不足「要因は人口構造」 九州経済白書2017 景気と連動薄れる

日本経済新聞 2017年2月2日

九州経済調査協会は2日、2017年版九州経済白書を発表した。50回目の今回は「人材枯渇時代を生き抜く地域戦略」をテーマにまとめた。白書は九州の人材不足の要因がこれまでの「景気」から、中長期的な人口減少や高齢化といった「構造要因」に変わったと指摘。女性や高齢者、外国人などを新たなプレーヤーとして活用する重要性を強調した。

九州7県と沖縄県、山口県を対象に分析した。九経調の調査によると、企業の55.1%が人員の不足感を感じており、小規模企業は新卒正社員の確保にも苦慮していた。人材不足と景気との連動性を見ると、14年の消費税増税を境に業況が伸び悩む中でも人員不足は高まり続けていた。今後は、景気が調整局面に入っても人材の逼迫は持続する可能性が高いという。

景気との連動性が薄れた要因としては、10～15年度以降に医療・福祉や飲食店など、製造業とは違って景気動向指数との相関が低い産業で新規求人数が増加している点を指摘した。

人材の逼迫の対策としてはUIJターンなどを進めるほか、女性や高齢者の活用で、労働力率（人口に占める労働力人口の比率）を維持する取り組みが重要だと指摘。女性の就労拡大や60歳以上の退職を抑制することで、40年にも15年と同程度の労働力率を維持できるとの見通しを示した。

インフル、例年のピーク時に並ぶ 患者201万人 共同通信 2017年2月3日

厚生労働省は3日、1月29日までの1週間でインフルエンザの患者が前週よりさらに増え、1医療機関当たり39.41人になったと発表した。昨年や一昨年のピーク時の患者数にほぼ並んだ。1週間に医療機関を受診した患者は全国で約201万人に上ったと推計。前週より約40万人増えた。全国約5千の定点医療機関からの報告を基に算出した。都道府県別では、宮崎県が59.08人で最も多く、福岡県（55.10人）、愛知県（54.68人）、埼玉県（51.68人）、千葉県と山口県（51.40人）と続いた。全ての都道府県で前週よりも増えた。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行